

令和5年度 SDGsの実現に向けた教育推進事業

市町名 皆野町
学校名 皆野中学校

1 育成する能力

地域の人々と共に行う自然体験・社会体験等を通じて、地域社会の一員としての自覚を持たせている。主体性・社会性・将来性を培うことを念頭に置き、ふるさとへの貢献意欲を向上させたい

2 研究概要

(1) 取り組むSDGsの目標



(2) 研究主題

「学び合う集団の育成」
～地域を支え、地域に貢献する次世代の育成～

(3) 研究仮説

SDGsについて考え、学び合う集団を育成すれば、「多様な視点から問題を解決する力」「互いの意見を尊重し、認め合う力」「能動的に行動する力」が向上し、地域の課題を自分事としてとらえ、地域に貢献する生徒を育成することができるであろう。

3 企業・団体との連携

(1) 連携・協働する企業・団体

(株) 東洋精工
(株) 上武

(2) 連携・協働する主な内容

社会貢献活動
①町内の道路清掃（ゴミ拾い）
②町内の緑化活動（種付・官公庁及び最寄り駅や商店街の緑化）

4 事業実施概要

月 日	事業内容	場 所	対 象
5月 14日	トレイルランボランティア 運営補助	皆野町内	有志
7月 12～14日	職場体験学習 地域の産業について知る 各事業所で職場体験を行う	皆野町各事業所	2学年

7月	残食チェック 給食の残食をチェックし、フードロスについて考える	皆野中学校	全校生徒
7月 18日	俳句教室 ・全員が俳句を書き、俳句の歴史や書き方について学んだ ・全員の俳句を董振華先生に見ていただき評価をしていただいた	多目的教室	全学年
夏休み ～9月	秩父音頭祭りへの参加 ・秩父音頭の練習を行なった。 ・地域の方と連携して、屋台ばやしの演奏や踊り方の指導をしていただいた。 体育祭にて地域住民と共に秩父音頭を踊った。	校庭 多目的教室	全学年
9月～	ペットボトルキャップ回収 リサイクル資源として売却した売上金をワクチン寄付に利用（JCV） アルミ缶回収 回収したアルミ缶を地元リサイクル業者へ	皆野中学校	全校生徒
9月～	ペットボトルキャップ回収 リサイクル資源として売却した売上金をワクチン寄付に利用（JCV） アルミ缶回収 回収したアルミ缶を地元リサイクル業者へ	皆野中学校	全校生徒
10月	SDGsコーナーの設置 （多目的教室・廊下）	皆野中学校	全校生徒
10月 27日	出前授業（来ハトメ工業） 環境担当者のお仕事ウォッチング 今から始める持続可能な活動について知る 一人一人のSDGs目標を考える	皆野中学校	1学年 来ハトメ株式会社
11月 24日	出前授業（パイロットコーポレーション） 使用済み筆記具を集めておき、分解・分別・分析を実習、回収したリサイクル材を使って簡易インジェクション機で定規などへのアップサイクルを体験する。 蛍光ペンのインクを補充し、リサイクルする。	皆野中学校	2学年 パイロットコーポレーション
11月 24日	秩父3校見学 秩父高校、秩父農高科学高校、小鹿野高校をバスで巡って県学	秩父高校 秩父農高科学高校 小鹿野高校	1学年
11月	町の企画財政課の方に来ていただき、町の課題である、少子高齢化、人口減少について話していただいた。	多目的きょうしつ	3学年 役場職員
12月 1日	皆野教育シンポジウム 地域の人たちと皆野町の未来について考える。	皆野中学校	3学年 地元企業 早稲田大学学生

	皆野町の課題を知り、課題解決のための政策を考える。 それをもとに、町の課題の解決策について考え、地域の人に発表すると共に、地域の人とさらにその策を深めた。		地域住民 役場職員
12月 8日	校外学習 皆野町の特色について考える。 皆野町と川越市を比較し、皆野町を維持・発展させていくために必要なことを考える	川越市	1学年
12月 8日	句碑巡り 皆野町の伝統について知る	皆野町	2学年
2月	ポピーの栽培 天空のポピー観光地として、駅や役場周辺にポピーのプランターを設置し、観光客を迎え入れる	皆野中学校 皆野駅 親鼻駅	ボランティア委員会 3学年 東洋精工
3月	清掃活動（奉仕）	皆野中学校 皆野町	3学年 東洋精工
3月 11日	企業見学 （カップヌードルミュージアム）		3学年

5 成果と課題

- 児童生徒の変容
 - ・ 環境への意識が高まった。
 - ・ 地元高校の魅力を肌で感じることで、自分自身の進路実現に対する意欲が高まった。
 - ・ 自分たちが住んでいる地域の企業や大人たちの様子を肌で感じ、地域理解の意識が高まった。
 - ・ 皆野町の伝統や文化に親しみ、皆野町に関心や興味を持つようになった。
 - ・ 皆野町シンポジウムで地域の人と皆野町の課題を考えることで、より住みやすい皆野町を考えるようになった。
 - ・ 学校で勉強するすべての教科の学習内容が環境と深く関連することに気づくことができた。
 - ・ 身近な筆記用具に使われているプラスチックを再生することで、また文房具として使うことができると知った。
 - ・ 使い終わったものを捨てずに、できる限りリサイクルしようという意識を高めていた。
 - ・ 親しんできた筆記用具を作っている企業がSDGsを意識した取り組みをしていることを知り、自分たちも関わっていこうと考えている様子が見られた。
 - ・ 町民との交流により、町の人たちとのつながりが広がった。
 - ・ 町の課題（人口減少など）について考える事は少なかったが、当事者意識が高まり、町の特色や課題について考えるようになった。
- 学校全体の変容
 - ・ 教職員のSDGsへの関心が高まった。
 - ・ 委員会（ボランティア）でもペットボトルキャップやアルミ缶の回収などのSDGsに関する取り組みを行なうようになった。
 - ・ 皆野町について理解が深まった。
 - ・ 地域の方を講師として招き、コロナ禍においてできなかった秩父音頭の練習をすることで、伝統芸能の継承を行うことができた。

- ・皆野町シンポジウムや職場体験などを通して、地域の人たちや企業との繋がりをもつことができた。
- ・SDGsの視点で、全ての行事を見直し、計画・実行した。
- ・地元企業（東洋精工）との協力体制
- ・町内小中学校で協同し「上武金沢ギャラリー」（絵画看板制作）のに展示する絵画を作成した。

○ 令和6年度に向けての課題

- ・今年度はいくつかの目標を設定したが、今後、GOAL 11を中心に研究を進めていきたい。
- ・パートナーシップを組んだ企業との連携を深めて行く必要がある。
- ・SDGsの視点をふまえた教育課程、各教科、領域の年間指導計画の見直しをする。
- ・高校の出前授業を実施する。
- ・皆野町の文化や歴史、産業などを学ぶ機会を増やす。